

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra



©読響

モーツァルト: 歌劇「後宮からの誘拐」序曲

MOZART: "Die Entführung aus dem Serail" Overture

モーツァルト: ピアノ協奏曲 第24番 短調 K.491

MOZART: Piano Concerto No. 24 in C minor, K. 491

ブルックナー: 交響曲 第4番「ロマンティック」変ホ長調 WAB.104 (1888年稿/ゴーストヴェット版)

BRUCKNER: Symphony No. 4 in E flat major WAB. 104 "Romantic" (Version 1888, Edited by B. Korstvedt)

いよいよ9年間の常任時代の集大成。
鮮やかなタクトで新たなブルックナー像を描く!

シルヴァン・カンブレラン

(読響常任指揮者)

SYLVAIN CAMBRELING, Conductor

BRUCKNER No. 4 "Romantic"

Symphony

旅立ちのブルックナー ～ロマン主義の白鳥の歌に乗せて～



©Simon Fowler

2018
9.21

読売日本交響楽団 第615回 名曲シリーズ

(金) 19:00 サントリーホール S¥7,500/A¥6,500/B¥5,500/C¥4,500 OUT

Popular Series, No. 615 / Friday, 21st September, 2018 19:00 / Suntory Hall

9.23

読売日本交響楽団 第106回 みなとみらいホール名曲シリーズ

(日・祝) 14:00 横浜みなとみらいホール S¥7,500/A¥6,500/B¥5,500/C¥4,500 OUT

Yokohama Minato Mirai Holiday Popular Series, No. 106 / Sunday, 23rd September, 2018 14:00 / Yokohama Minato Mirai Hall

世界各地の聴衆の心を驚つかみ!
独特の世界観で深い音楽性を追求する鬼才

ピョートル・
アンデルシェフスキ

(ピアノ)

PIOTR ANDERSZEWSKI, Piano

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休)

<https://yomikyoku.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文部科学省文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: 横浜みなとみらいホール(9/23)



Sylvain Cambreling

Conductor

カンブルランが創る “言葉のないオペラ”

澤谷夏樹(音楽評論家)

カンブルランがモーツァルトのオペラ《後宮からの誘拐》を振る。いやいや、それは序曲だけで、あとは協奏曲と交響曲だ、という声もあろう。この日のプログラムは序曲にそのふたつを加え、言葉のないオペラを作り上げる試みに見える。

トルコの太守に売られた婚約者を、未来の花婿が太守の後宮から救い出そうと奮闘する、というのが《後宮からの誘拐》のあらすじ。異国で人探しをする不安、婚約者を救出する決意、太守による脅迫、離れ離れになったふたりの再会、愛するもの同士の誤解、死刑を前にした悲観、太守による赦しと婚約者ふたりのほとばしる喜び。こうした情緒の動きを、モーツァルトのハ短調のピアノ協奏曲と、ブルックナーの交響曲《ロマンティック》とで描き出す。

暗雲立ち込めるような第1楽章、穏やかに木管楽器が歌う第2楽章、前打音がトルコ音楽の香りをただよわせる最終楽章。ピアノ協奏曲はなるほど、第1幕の舞台を映すかのようだ。独奏はアンデルシェフスキ。確信に満ちた

解釈と、そこにいたる手段の柔軟さとがすばらしい。同じ曲の演奏でも、あるときは音色差と音量差を、またあるときは子音と句読点を「音楽の筆」とする。方法は違うのに、結果はいずれも「音楽のおしゃべり」を表現。“オペラを弾く”ピアニストとして、これほどふさわしい人はいない。

ブルックナーは交響曲《ロマンティック》のところどころに「教会の塔で朝を告げるラッパが鳴る」「寝覚めの街の門が開き、騎士が馬で表へ駆け出す」「ロマンティズムの白鳥の歌」といった詩的な解説を付けている。それらは太守の威厳(ラッパが鳴る)、婚約者の救出(馬で駆け出す)、死刑を前にした愁嘆(白鳥の歌)につながる。作曲者はこうした場面転換を、ハーモニーの緊張と緩和で浮き彫りにする。そこに手抜きのないのがカンブルランと読響の仕事。演奏の彫りの深さがそのまま、当夜の歌劇の起伏となる。

交響曲終楽章のコラールは、解放を告げる関の^{とき}声となるか。カンブルランと読響による“モーツァルト・オペラ”の幕がこの初秋、いよいよ上がる。



Piotr Anderszewski Piano

ピョートル・アンデルシェフスキ ピアノ

独特の世界観を持ち、深い音楽性を追求し続けている鬼才。1969年ポーランド生まれ。これまでにウィーン・フィル、ベルリン・フィル、パリ管、ロンドン響など世界一流の楽団と共演を重ね、ベルリン・フィルハーモニー、カーネギーホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ウィグモア・ホールなど著名ホールでリサイタルを開催し、世界各地の聴衆を魅了している。今年6～7月にはミュンヘン・フィルと共演し、8月にはエディンバラ音楽祭やマントン音楽祭に出演。録音ではワーナー・クラシックス/エラートと専属契約を結び、グラモフォン賞など権威ある賞を多数受賞。ヨーロッパ室内管を弾き振りの最新盤『モーツァルト：ピアノ協奏曲第25、27番』は「レコード芸術」誌の特選盤となった。今回、読響と初共演。

©Simon Fowler

シルヴァン・カンブルラン 読響常任指揮者

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得ている。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデン・バイブルクSWR響の首席指揮者を歴任し、18年7月までシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督の任にある。クラングフォーラム・ウィーンの首席客演指揮者を務めるほか、18年秋にはハンブルク響の首席指揮者に就任する。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィルなど世界の一流楽団を指揮。17年11月には読響とメシアン^の歌劇「アッシュの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を披露し、『音楽の友』誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位に選出されるなど絶賛された。

読売日本交響楽団 第615回 名曲シリーズ 2018年 9月21日(金) 19時開演	サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001 S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,500 ●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分
読売日本交響楽団 第106回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ 2018年 9月23日(日・祝) 14時開演	横浜みなとみらいホール 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-6 Tel. 045-682-2020 S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,500 ●東急東横線直通・みなとみらい線「みなとみらい」駅 クイーンズスクエア横浜連絡口 徒歩3分 ●JR京浜東北線・根岸線、横浜市営地下鉄「桜木町」駅 動く歩道からランドマークプラザ経由でクイーンズスクエア1階奥 徒歩12分

【託児サービス】横浜みなとみらいホールでは「託児サービス」を提供しています。(株)明日香045-316-5539 学生券：学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390
*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>
*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド チケットぴあ 0570-02-9999 サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017(21日) 横浜みなとみらいホールチケットセンター 045-682-2000(23日)